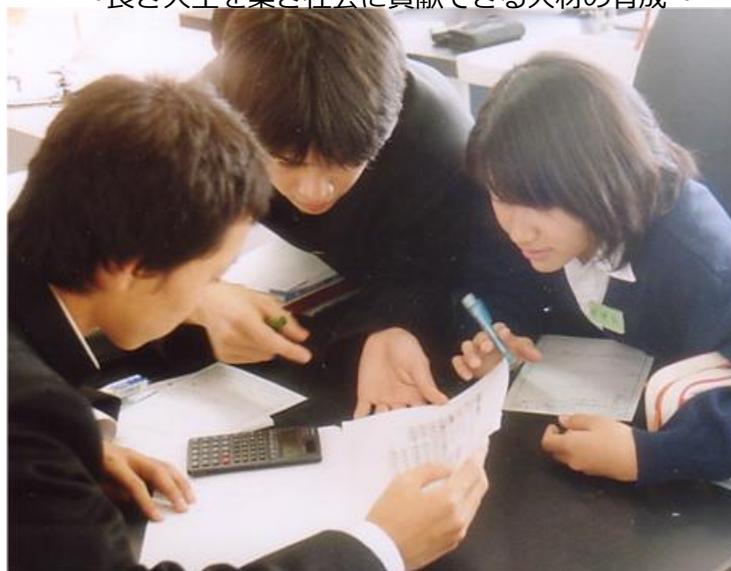


【方針3】 「人」と「知」の基盤づくり

8 教育再生プロジェクト

～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～



子どもたち一人ひとりが、学力や体力、人間性などを身に付け、自らの人生を切り拓き、社会に貢献できる人材として育つとともに、県民誰もが生涯にわたる学びを通じて自己を磨き、豊かな人生を送ることができる教育県をめざします。

- アクション1 学力・体力の向上と多様な学習機会の提供**
子どもたちの学力や体力を向上させるとともに、一人ひとりの個性に合った多様な学習機会を提供します。
- アクション2 地域に開かれた信頼される学校づくり**
コミュニティスクールなど、家庭や地域が小・中学校を支える仕組みを構築し、地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます。
- アクション3 農業体験など体験活動の推進**
子どもたちの社会性や自主性を育むため、小・中・高等学校で農業体験、福祉体験、就業体験など様々な体験活動を推進します。
- アクション4 情報活用能力、英語コミュニケーション能力の向上**
時代の変化に対応できる人材を育成するため、子どもたちの情報活用能力や英語コミュニケーション能力の向上に取り組みます。
- アクション5 高等教育全体の振興**
地域社会の発展に貢献できる有為な人材を育成するため、県内の高等教育全体を振興するとともに、県立4年制大学を設置します。
- アクション6 生涯にわたる学びの環境整備**
生涯にわたる学びや学び直しができる環境整備を進めます。

8 教育再生プロジェクト ～良き人生を築き社会に貢献できる人材の育成～



(1) 学力・体力の向上と
多様な学習機会の提供

～一人ひとりの個性や能力を最大限に伸ばす教育の実現～

【取組のポイント】

- 子ども一人ひとりの個性に合ったきめ細やかな指導を実施できる体制づくり
- 幼児期からの運動遊びを取り入れた「長野県版運動プログラム」の普及

現状と課題

中3時の学力が全国平均を下回る

運動をする子としない子の二極化

中学生女子の総運動時間 (H28)
1日1時間以上 : 53.7%
週1時間未満 : 26.1%

全国学力・学習状況調査における
全国平均正答率との差 (単位: %)

	国語A	国語B	算数・ 数学A	算数・ 数学B
H25年度調査の 小学6年生	+1 ↓ 減	+1 ↓ 減	+1 ↓ 減	+2 ↓ 減
H28年度調査の 中学3年生	0	-1	-1	0

(出典: 文部科学省)

主な取組

- 小中学校30人規模学級 (35人以下学級)の全学年実施 (H25～)
- 「長野県版運動プログラム」の開発・普及(H21.4～)
- 特別支援教育の充実
- 「学びの改革 基本構想」策定(H29.3)

成果

- 「授業がよく分かる」と答える児童生徒 (小6、中3) の割合の向上
H24年度:73.7% → H28年度: **74.8%**
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点の全国順位向上
H24年度:全国31位 → H28年度:全国**23**位
- LD等通級指導教室の利用者
H24年度:138人 → H28年度:**446**人 (約3倍)



(2) 地域に開かれた 信頼される学校づくり

～学校・家庭・地域が連携し子どもたちの
心豊かな学びを支援～

【取組のポイント】

- 信州型コミュニティスクールによる地域に開かれた学校づくりを推進
- 不登校、いじめ等の悩みを抱える児童生徒に寄り添う支援体制の充実
- 児童生徒による主体的ないじめ防止の取組を推進

現状と課題

信州型コミュニティスクール実施学校が順調に拡大

不登校児童生徒在籍比率が増加傾向

小学生 0.33% (H24) → **0.48%** (H27)
中学生 2.60% (H24) → **2.71%** (H27)

信州型コミュニティスクール実施学校数の推移
(長野県教育委員会調べ)



主な取組

- 信州型コミュニティスクールの設置促進
- 学校生活における悩みに対応する学校生活相談センターの設置、利用促進 (H27.4～)
- スクールソーシャルワーカーによる支援体制の充実 (H28～)
- いじめの未然防止のために何ができるかを児童生徒が主体的に考え、行動に移す取組を促進

成果

- 信州型コミュニティスクールの実施割合 67.6%(H27) → **93.8%**へ (H28)
(参考) 登録ボランティア数 28,757人 (H28末)
- 学校生活相談センターの相談件数 **639件** (延べ相談回数**855件**) (H28)
- スクールソーシャルワーカーの配置時間を約**3倍**に大幅拡充
4,426時間 (H27) → **13,365時間** (H29)



(3) 農林業体験など体験活動の推進

～様々な体験活動を通じて社会性や自主性を育成～



【取組のポイント】

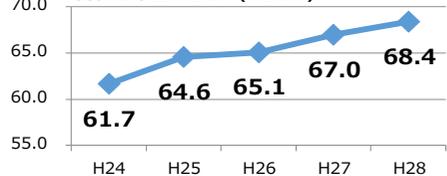
- 社会体験・職業体験活動など、体験を通じた学びを推進
- 地域を理解しふるさとへの誇りや愛着を育む「信州学」を推進

現状と課題

「就きたい仕事がイメージできる」と答える高校1年生 **68.4%**

確かな力を持った人材の育成と地域への定着が必要

「就きたい仕事がイメージできる」と答える高校1年生の割合（単位：%）



(出典：平成27年度高等学校学力実態・意識調査)

主な取組

- **子どもたちの発達段階に応じた体系的なキャリア教育を推進**
プラットフォームを活用したキャリア教育の充実
- **学びと働きを連携させた新たな人材育成モデルの構築** (H28～)
成長産業・基幹産業における人材育成
地域の可能性を再発見する郷土人材育成
- **「信州学」の推進** (H27.1～)
冊子『わたしたちの信州学』作成
全県立高校へ配布



成果

- **就業体験活動等の実施率の向上**
中学校：職場体験学習実施率 **100%**
高校：就業体験活動を実施した生徒の割合
H24:52.2% → H28:**90.1%**
- **高校卒業者の地元就職率は高い水準を維持**
公立高校を卒業した就職希望者の**90.9%**が県内就職(H28)
- **全ての県立高校で「信州学」を実施** (H28年度)
各校で、地域の特性を踏まえた工夫した取組
「信州学」ホームページの充実と情報発信

(4) 情報活用能力、 英語コミュニケーション能力の向上

～時代の変化に対応できる人材の育成～



H28 未来塾ながの in the Philippines

【取組のポイント】

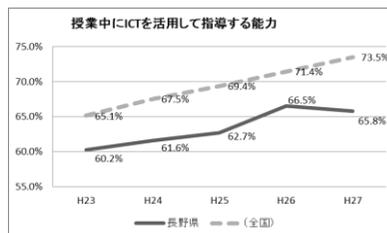
- ICTを活用した授業の実施による児童生徒の学力や情報活用能力の向上
- 英語指導教員の研修の充実や留学支援などの取組による児童生徒の英語コミュニケーション能力の向上

現状と課題

県内教員の授業中のICT活用指導力は
全国平均を下回っている

英検準2級と同等の力を有する
高校3年生の割合は徐々に増加

H27：34.4% → H28：**35.5%**（全国平均と同程度）



(出典：文部科学省)

主な取組

- 教員のICT指導力向上研修を推進
- ICTを活用した確かな学力の育成を推進
- 特別支援学校における教育用タブレット端末の整備
- 高校におけるグローバル人材の育成
 - ・ スーパーグローバルハイスクール (SGH)
 - ・ 長野高校 (H26)、上田高校 (H27)
 - ・ 未来塾ながの in the Philippines

成果

- 教員ICT活用指導力の向上
授業中にICTを活用して指導する能力のある教員
H23：60.2% → H27：**65.8%**
全国73.5%(H27)水準へ更に取組を進める
- 全普通教室への電子黒板・タブレットPC
1クラス分整備校
H27：0校 → H29：**14校**
- 長野高校・上田高校において、グローバル化への先進事例となる研究を实践
- 県内の高校生をフィリピン共和国へ
20名派遣(H28年度)

(5) 高等教育全体の振興

～郷学郷就県づくり～



長野県立大学（仮称）イメージ

【取組のポイント】

- 新たな県立4年制大学の設置
- 大学間の連携強化等による県内高等教育全体の振興
- 県内大学の魅力発信による学生確保

現状と課題

大学進学率	43.5% (全国29位)
県内大学の収容力	16.5% (全国最下位)
県外大学への流出率	82.9% (全国7-8位)



主な取組

- 「信州高等教育支援センター」の設置 (H28.4)
県内大学の大学改革・学部を設置を支援
- 長野県高等教育振興基本方針を策定 (H28.5)
- 産学官の連携による県内への人材定着の取組の推進
- 信州で学ぶ魅力を県内外へ発信
- 長野県立大学（仮称）の開設に向けた準備の推進 (開学予定 平成30年4月)

成果

- 県内大学の志願者数の増加

年度	志願者数	志願倍率
H28	12,266人	3.6倍
H29	15,592人	4.4倍

県内大学の魅力アップ!

- 産学官連携でインターンシップのマッチングを実施 62名が参加 (H28年度)
- 県内企業の海外事業所でのインターンシップへの参加を支援 8名が参加 (H28年度)





(6) 生涯にわたる学びの環境整備

～生涯を通じた学びと

その成果を社会に生かす環境づくり～

【取組のポイント】

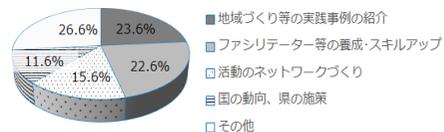
- 公民館組織の力量を高める生涯学習推進センターの研修・相談機能の強化
- 県立長野図書館が中核となり、公共図書館と共に「情報」と「人」とをつなぐ新しい図書館づくりを推進

現状と課題

地域課題を解決する公民館活動を進めるため、公民館主事の確保・育成が必要

県内の公共図書館の多くが情報のデジタル化に対応できていない

市町村が生涯学習推進センターに開設を希望する講座内容
(H27 長野県教育委員会調べ)



主な取組

- 「公民館支援専門アドバイザー」による市町村への助言活動(H28.4～)
- 公民館初任者向け講座の新設 (H28.4～)
- 「地域の情報拠点」としての図書館改革を推進 (H27～)
 - 図書館連携に向けたネットワーク体制の検討
 - ICT機器・データベース資料の利用環境整備



成果

- 公民館支援専門アドバイザーにより約半数の市町村へ助言を実施
- 公民館基礎講座 全県の公民館職員の約1/3が受講
- 県立長野図書館が県内78館の図書館を訪問し、意見交換を実施 (H27～28)
- 本とデジタルのハイブリッド図書館モデル空間整備 (H28)
 - ICT機器等を活用しながらグループワークができるワークショップスペースの設置

8 教育再生プロジェクト

達成目標の進捗状況

(総括マネージャー 教育長)

進捗区分 ●「A」：目安値以上 ●「B」：80%以上100%未満の進捗
 ●「C」：80%未満の進捗 ●実績値なし：今年度実績値が把握できない
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値) ・目安値：各年の目標値

学校満足度 (小学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	90.4	90.7	91.0	
	実績値	90.7	90.7			90.7	89.7	
	進捗区分	A	C			C	C	
(進捗状況の分析) 魅力ある教育課程を創り、子ども理解に基づいた子どもと共に創る授業に取り組んでいるものの、「授業がわかる」と回答した子どもの割合が伸び悩むなど、満足度向上に十分にはつなげられませんでした。				(今後の取組) ・一人一人が認め合える学級づくりやわかる授業づくりをさらに進めていくとともに、「授業がもっと良くなる3観点※」の質的向上を図り、授業の中で子どもたちが友と学びを深めていくことの楽しさを実感できるようにする ※「ねらいを明確にする」「めりはりを付ける」「ねらいの達成を見届ける」				
学校満足度 (中学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	85.7	86.5	87.3	
	実績値	86.6	87.0			87.0	89.7	
	進捗区分	A	C			C	A	
(進捗状況の分析) 生徒がわかる授業への授業改善が進んでおり、実績値は向上してきています。また、授業と関連付けた家庭学習の改善も進み、生徒の学習意欲を高めています。				(今後の取組) ・日々の授業を魅力あるものとし、一人一人が認め合える学級づくりやわかる 授業づくりをさらに進める				
学校満足度 (高等学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	75.3	76.2	77.2	
	実績値	76.5	77.3			78.3	79.2	
	進捗区分	A	A			A	A	
(進捗状況の分析) 各学校の個性を活かしたカリキュラムマネジメントの推進を図るとともに、探究的な学びを見据えた授業改善に努めることで、学校生活の充実につながっています。				(今後の取組) ・次期学習指導要領を踏まえ、より一層充実したカリキュラム編成に努めるとともに、探究的な授業の普及・徹底を図ることで、主体的・対話的で深い学びを実現していく				

8 教育再生プロジェクト

「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合 (小学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	61.8	62.4	63.1	
	実績値	64.7	65.3			62.6	64.4	
	進捗区分	A	A			C	A	
(進捗状況の分析) 各学校において全国学力・学習状況調査や学習内容が児童生徒に確実に定着しているか確認するために県が実施するP調査の結果を踏まえて学力向上のP D C Aサイクルを回すことで授業改善などを進め、基礎的・基本的な内容の定着を図っています。				(今後の取組) ・学力向上のためのP D C Aサイクルの確立 ・授業の中に話し合う活動や説明する活動を位置付けるとともに、授業のねらい達成の「見とどけ」を大切に取る取組を推進				
「基礎的・基本的な内容の定着度」が全国平均より高い児童生徒の割合 (中学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	56.5	57.2	57.9	
	実績値	54.5	58.1			55.5	54.2	
	進捗区分	C	A			C	C	
(進捗状況の分析) 一人一人の実態を把握し、放課後や休日における補足的な学習サポートを実施している学校の割合が全国平均より低いなど、指導と評価を一体化した取組が十分にできていないため、目安値に達しなかったと考えられます。				(今後の取組) ・学力向上のためのP D C Aサイクルの確立 ・授業の中に話し合う活動や説明する活動を位置付けるとともに、授業のねらい達成の「見とどけ」を大切に取る取組を推進				
「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合 (小学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値			%	58.0	58.4	58.8	
	実績値	59.7	59.5			55.9	57.1	
	進捗区分	A	A			C	C	
(進捗状況の分析) 主として活用に関する問題において全国平均正答率を下回る問題数が多いことから、長文で構成されたまとまった文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて文章化したりする力が十分についていないため、目安値に達しなかったと考えられます。				(今後の取組) ・指導主事の学校訪問支援や研修などの機会をとらえて、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて一層周知していく				

8 教育再生プロジェクト

「学習したことを実生活の場面に活用する力」が全国平均より高い児童生徒の割合(中学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	%		54.2	54.7	55.1	55.6	56.0
	実績値		53.8	52.3	54.7	49.2	52.2	
	進捗区分			C	A	C	C	
(進捗状況の分析) 主として活用に関する問題において全国平均正答率を下回る問題数が多いことから、長文で構成されたまとまった文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて文章化したりする力が十分についていないため、目安値に達しなかったと考えられます。				(今後の取組) ・指導主事の学校訪問支援や研修などの機会をとらえて、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりについて一層周知していく				

全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点の全国順位(小・中学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	位		29	27	25	22	10位台
	実績値		31	29	27	19	23	
	進捗区分			A	A	A	B	
(進捗状況の分析) 県内の中学生女子では運動好きな生徒の割合が全国平均よりも低く、運動をする習慣のない生徒が増えて低得点者の割合が高くなったこと、また、全国平均得点が大きく上昇したこともあり、目安値を下回りました。				(今後の取組) ・長野県版運動プログラムの活用による、幼児期から楽しみながら体を動かして遊ぶ習慣の定着 ・児童生徒が「伸びた・できた」ことを実感できる承認の場を積極的に取り入れ、運動の楽しさが味わえる授業づくりを推進 ・各校で「体力向上プラン」を見直し、教育活動全体を通じた体力向上の取組を推進 ・近年減少傾向にある中学生女子の運動部活動加入率向上に向けた環境づくり				

8 教育再生プロジェクト

信州型コミュニティスクールの実施割合(小・中学校)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	%		3.0	30.0	50.0	75.0	100.0
	実績値		0 (21.0)	13.6	36.5	67.6	93.8	
	進捗区分			A	A	A	A	
(進捗状況の分析) 先駆的に実践活動に取り組む方々をアドバイザーとして派遣したほか、各種研修会や事例発表等の普及・啓発を重ねることにより、保護者や地域住民、学校の理解が予想以上に進み、目安値を大きく上回る実績値となりました。				(今後の取組) ・取組の底上げや運営の充実を目指す市町村を重点的に支援するため、引き続き、仕組の導入を先駆的に手掛けた経験者等をアドバイザーとして派遣 ・教職員・コーディネーター・ボランティア等の役割に応じた演習形式の研修を実施 ・信州型C Sに対する理解を深め、導入の検討段階からの支援や運営上の悩みに対応するため、市町村教育委員会や学校を直接訪問				

就業体験活動を実施した生徒数の割合(高校生)	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標(H29)
	目安値	%		60.0	70.0	80.0	90.0	100.0
	実績値		52.2	60.4	71.7	80.2	90.1	
	進捗区分			A	A	A	A	
(進捗状況の分析) 「すくたせ修行」就業体験事業や大学等の上級学校見学会の中で職業観や勤労観の育成に取り組み、順調に推移しました。				(今後の取組) ・働くことの意義や勤労観を養い、学ぶことの大切さを理解するとともに、将来を見通した生活ができるよう指導を充実 ・先進的な学校の取組を全校と情報共有することによる就業体験活動の一層の推進				

8 教育再生プロジェクト

英語コミュニケーション能力水準 (英語検定3級レベル (中学生))	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値	%		26.0	29.0	33.0	36.0	40.0
	実績値		19.8	28.2	33.2	33.7	31.0	
	進捗区分			A	A	A	C	
(進捗状況の分析) 英語検定の評価基準が、単純な得点比較から「読む」「聞く」「話す」の各技能のバランスを求めるものに変更されたこともあり、全国的な傾向と同様、3級レベルの生徒の割合が下降した。				(今後の取組) ・各校で生徒の実態に応じた独自のCan-Doリスト形式での学習達成目標を設定し、生徒の理解と表現の能力を伸ばす授業の推進 ・言語活動の充実を意識した授業を通じ、コミュニケーション能力を育成				

英語コミュニケーション能力水準 (英語検定2級レベル (高校生))	年度	単位	基準値	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
	目安値	%		33.0	35.0	36.0	38.0	40.0
	実績値		30.0	34.4	35.0	34.4	35.5	
	進捗区分			A	A	C	C	
(進捗状況の分析) 各高等学校で生徒が英語を使う活動を多く取り入れるなど、授業改善に努め、英語への興味、関心が高まったものの、目安値には達しませんでした。				(今後の取組) ・英語担当教員の研修を更に充実させ、生徒が授業で英語を使う機会を増やす等の授業改善の取組を推進				